

鶴川図書館大好き！の会 第7回ワークショップ

= 鶴川地域の図書館の今後を考える = 記録

2022.6.11

日時：2022年6月11日 午後1：30～4：00

場所：鶴川市民センター 第1会議室

出席者：森、守谷、米永、清原、桜井、高橋、山下、為我井、篠田、富岡、庄司、手嶋、清水、鈴木 計14名

1. 鶴川駅前図書館の指定管理制度導入について(資料を使って説明：鈴木)

* 導入後2ヶ月のこの頃

人がまばらな印象。夜8時までの開館時、ほとんど人がいなくて不健康な感じがしたという感想もあり。

おはなし会のボランティア：今までと違って、図書館側との事前の打ち合わせは特になく、伝えて置いた演目をやってくださいということだけで、相談とかはなく、終わってからの反省会もなかった、とにかくやることをただやるという印象だったとのこと。

* 指定管理料(資料あり)

経費を安くするという目的のはずが、増えている。

指定管理の契約額	市直営の2020年度予算額	2019年決算
1億818万円	9048万円	7928万円

経費の増減よりも、指定管理にすることが目的とされている。

公営を減らす自治体に国から交付金があるようだ。

* 会計年度任用職員の司書の方のこと

他の館へ移動。雇用はつながったが、5年ごとに、新規と同じ試験を受けなくてはならない。(八子市は図書館だけでなく市全体で会計年度任用職員の雇止めがない)

市議会では佐藤和彦議員が質問するので注視したい。

5月22日、29日TBSTV噂の東京マガジンにこの問題が放映された。上林陽治氏(非正規雇用研究の第一人者)発言あり、会員内でも見たいところ。

2. 鶴川図書館のこと(資料を使って説明：鈴木)

(1) 支援業務委託業者について

資料：・プロポーザル応募者との質疑応答書

・プロポーザル評価委員会名簿。

・最高点となって、委託が決まった(株)HITOTOWAの情報

6月15日にHITOTOWAという受託業者が市と契約する。

(以降、発言者は発言順にアルファベットで表記)

A) 商店会には、図書館職員3名が来て、また説明に来ると行ってきた。

B) この業者は、地域のコミュニティ作り、団地やマンションのコンサルティングをやっていて、町

起こしなどの実績はない。今年予算がつき、来年コミュニティのための改修に関わるだろうが、それ以降は不透明。町田南地区の駅前連絡所リエゾンの閉鎖が決まり、図書の受け渡しは「まちライブラリー」に委託されるようだ。

A) URの3月の改修計画は自治会の了承が得られず延びている。引っ越し費用の額の根拠を求めている。スーパーヤマザキが閉店してしまい、そのあとに7月末ビッグ・エーが開店する。

(2) 会としてどのように対応していくか。建て替えが始まったら、郵便局と図書館が商店街の中ではなく、別の場所に一時的に引っ越すこともあり得る。

鈴木) 市の図書館として残していくために、八王子、多摩市との比較をしながら、

会計年度任用職員を主とした運営に切り替えることを提案。資料参照。

現在の鶴川図書館の職員体制と経費、八王子市市民センター図書館運営費

2020年鶴川6870万円、市民センター5カ所概ね2000万台。鶴川の職員は常勤3名と会計年度任用職員8名に対し、八王子市民センターの職員は、図書館所属の司書2名と住民協議会契約のパート職員。

鶴川図書館の人員費と多摩市立地域館との比較

鶴川	4364万円	多摩市	東寺方	1297万円
			聖ヶ丘	2443万円
			唐木田	3592万円 (ここは窓口業務委託)

これらを参考に提案したい。

提案A 会計年度職員7名で、常時4名体制 人員費 2360万円

提案B 正規職員1名と会計年度職員6名体制 2760万円

市民協働については、対等に繋がりたい。下請けではなく。

これからグループ討議に入る予定だったが、会としてどういうものを作るかはっきりさせないとバラバラな討議になってしまうと意見が出、わかれずに全員が意見を述べることになった。

C) 中学生を引きつけたい。岐阜市立中央図書館メディアコスモスを見学して、様々な取り組みを知った。子ども司書のラジオ出演などの取り組みなどもいい。きちんと養成講座もしている。

B) 市長選後、公共施設を縮小させる方向の動きが進んでいるように感じる。会としてはどういう形を求めるか？

D) 前回の集まりで確認したことは、いろいろな具体的な提案はあったがその基本にあるものとして市立図書館として残していこうということだった。

E) 4月15日のシンポジウムの基調講演で、辻さんがフランスの図書館で催しが多いことを紹介された。それは単に打ち上げ花火のような人寄せという意味ではなく、豊富な図書館資料を活用して、市民に図書館の役割や機能をアピールするために実施しているのであり、図書館が率先してやるのが大事と言っていた。

F) 鶴川図書館は団地の中、再編後巨大になる中学校に近接し、駅前図書館とは違う展開があると思う。中学生とビデオを作ったりしたが、子供たちの親が手伝ってできることもあるし、英語多読の会ができることもある。

鈴) そういった活動を支える協議会のような核になるものがあるといい。

- A) 開架する図書館に加えて地域の交流の場になるとよい。
- G) 以前に教えていただいた UR の計画案では少しだけスペースが広がる感じだったが、もっと抜本的に広さを求めないといけないのではないか。
- A) 図書館に隣接して一定の広さの交流スペースができることになっている。
- F) 今のリモートワークをする人が多いのは、これからも変わらないとおもう。
地域の交流スペースが求められる。司書と wifi の機能は必要。
- H) 交流の場については一致している。司書がいないとどうなのか、専門の職員がいることの良さをもっと市民や市にわかるように伝える必要がある。
- I) 高校の国語教師をしている。図書館はたくさんの資料があって見られることが第 1 の機能。市立図書館でなくなれば、相互貸借がなくなり、絶対に外して欲しくない。図書館は司書の働きと幅広い蔵書が基本である。利用者を増やすこと、小中高生が利用しやすく自習スペースがあること、小中高と連携してそこに市民が手伝うなどができたらいい。
- A) 自習室は今の倉庫も使えるかもしれないし、他の場所も検討できるかもしれない。
- J) 市民協働ってなんなんだろう？という疑問がいつも残ってしまう。市はどのように定義しているのか明確していないと思う。市と一緒にやるには、市と市民が対等の立場で何をしたいのか話をしていくことが大切。北区のように市と対等に話し合う場を持つ必要がある。
- E) 市民協働の定義が必要。
- B) ともすると、市民はただ働きになってしまう危険性もある。専門性と資金を言っていくべき。市民協働はこうあるといいということをもとめる必要あり。
- K) 会に参加して間もないためよくわからなかった。どういうイメージが描けるか、参考になった。
- L) 今日の話し合いで、イメージは膨らんだ。一方で市は腰がひけている。一緒にやってほしい。
- 鈴) 担当の本郷さんは、業者任せではなく、市が関わっていくとは言っている。
- M) 野津田バラ園は指定管理になって市との二重構造になり、市民が関わるのが難しくなった。業者が間に入ると、そうなる懸念がある。
- E) 図書館では、長年「見計らい」といって、毎週取次店が持ってくる新刊の現物を見ながら選書を行っている。ところが、管理職からはそんな面倒なことはしないで、新刊リストを見て選ぶのが専門性だろうと言われるらしい。現物を手にして帯や前書の文章を読んだり、著者略歴を確認したり、索引や参考文献の有無だったり、現物を見ることでしかわからないことがたくさんある。そういうことが理解できない管理職がいるのが現実だ。
- 鈴) 今の管理職は一般事務職が配属されていて、再編計画の遂行が主な仕事のようになっているようだ。
- E) 会として、鶴川図書館がどうあるべきかを文章にまとめてみてはどうか。
- 鈴) そこには、①機能として大事なもの ②もっと市民がかかわることで鶴川図書館の存在価値が増すような提案を入れる。
- D) その中で市民と対等に進めることを確認する。
- J) 鶴川地域の 2 図書館は鶴川地域の学校支援をやっていた。それが今どうなっているか。ブックトークはこのところやられていないようだ。中央ではなく地域館の職員が出張授業をすると、地域の子どもたちをずっと見ているので、子どもたちも親しむ。やはり地域に根差した図書館でありたい。

☆6月15日以降、HITOTOWA が会に面会を求めてきたときには、会のメンバーみんなで対応したい、そこには図書館の人も加わるように求める。次回の日時はそれにより決めることになった。

富岡) 団地の夏祭りは、7月30日(土)4時から盆踊りや食べ物屋でやります。雨天は翌日。

☆話し合いの結果、今回は、今後の会が求める姿をまとめる作業もあり、夜のイベントでは、私たちの想いをアピールする活動が難しいので、まつりには参加しないこととした。